

106 ナーチャミー由来（イ）

昔はね、箱に入れてお墓に持って行くでしょう、沖縄はね。埋葬じゃなかったから。棺桶にあれして、そのままね、そのままお墓に納めるんだ。そんなでしたよね。

したら、この翌日ね、本当は朝早く行くわけですよ。ね。本当は。その意味はね、通る道の側にお墓があったから、そこから人が通ったから、してもう、そのお墓の中でね、もうがらがらがらしておったって、音が。してね、この人はもう意志がやっぱし強かったわけさ。して、こっちは昨日人が入ったのにね、なんでこんなにながらするかねえと思つて、耳、こうして墓に耳傾けて聞いたらね、もう墓の中でうんとね、箱がもう、がらがらしよったってさ。

したらね、この人は、通った人はよ、ここの葬式した家に行つてね、

「こんなだから、一応は墓開けて見てごらん」と言つ

て、連絡しに行つたわけ。したら驚いて、すぐね、翌日朝早く行つて、お墓開けたらね、この人はね、この箱の中からね、出て、箱の中でよ、箱の中大きいから、大きいから出てね、そこに寝ていたって。して、墓開けたらね、こんなだったからね、驚いてね、それから、こんなことがあるからといって翌日は、朝早く見舞いに行くそうです。

字国吉 翁長文子

類話

字糸満	上原皓吉
字北波平	長嶺光子
字阿波根	平田徳太
字賀数	照屋亀八
字照屋	与儀ウト
字豊原	国吉カマド
字与座	玉城清一、賀数カメ
字新垣	宮里栄吉
字小波蔵	伊敷力ミ、伊敷フヂ子

字南波平 山城善助
 字東里 玉城佐一郎（東辺名区）
 字福地 殿内三吉
 字大度 山城アキ